

業 務 報 告

企画情報科・総務スタッフ



(1) 講師派遣および研修の実施状況

| 21年度 月.日 | 講師名 | 依頼者 | 講義内容 |
|----------------------|----------------|-------------|------------------|
| 4. 3 | 吉澤 一家 | 市民団体 | 水生生物調査法研修 |
| 6. 3 | 吉澤 一家 | 大気水質 保全課 | 水生生物指導者 養成研修 |
| 12. 9-10 12.16-17 | 清水 源治 佐々木裕也 | 大気水質 保全課 | 騒音測定実務者研修 |
| 12.4 | 高橋 史恵 | 峡南農務事務 所 | 峡南地域 鳥獣防止対策会議 |

(2) 委員会、協議会ならびに業務関連学会の委員など

| 委嘱団体等の名称 | 役員等の名称 | 職員氏名 | 任期その他 |
|-----------------------|----------|-------|-----------|
| 国立医薬品食品衛生研究所 | 暴露評価研究委員 | 小林 浩 | 平成19～21年度 |
| 日本水環境学会関東支部 | 幹 事 | 吉澤 一家 | 平成21年度 |
| 日本陸水学会甲信越支部 | 幹 事 | 吉澤 一家 | 平成20～21年度 |
| 環境省相模川水系類型指定 検討委員会 | 検討委員 | 吉澤 一家 | 平成21年度 |
| 大気環境学会中部支部 | 幹 事 | 清水 源治 | 平成21年度 |
| 甲府市環境センター | 環境委員 | 清水 源治 | 平成21年度 |

(3) 来所者

| 21年度 月.日 | 目的 | 来所者 |
|------------|--------------------|--------------------------|
| 4.23 | 視 察 | 大韓民国忠清北道 保健環境研究院 (3名) |
| 8.12 | 校外学習(当所の業務) | 県立巨摩高校(36名) |
| 6.17 | 業務及び施設の見学 | 英和短期大学学生 (7名) |
| 7. 1, 7. 3 | 早期体験実習 | 昭和大学学生 (20名) |
| 8. 6 | インターンシップ | 山梨英和大学学生 (2名) |
| 10. 3 | 校外学習(環境科学部) | 北杜市立泉小学校 (42名) |
| 12. 5 | 大気汚染常時監視 システム見学 | 山梨大学学生(5名) |

(4) 医師臨床研修 (保健所での「地域保健・医療」研修プログラムの一部)

| 21年度 月.日 | 人 数 | 内 容 |
|--------------------------|-------|-----------|
| 8.25 9.14 10.14 11.30 | 合計 7名 | 当所の業務について |

(5) 刊行物

| 年.月 | 名 称 | 概 要 |
|-------------|-----------------------|-----------------------------|
| 21. 7 | 山梨県衛生公害研究所 年報 第52号 | 研究報告(12) 業務報告, 資料, 学会発表等 |
| 21. 9~21.11 | やまなし衛公研だより 第74~75号 | 当所ホームページを参照 |

ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>

(6) 第54回衛生公害研究所集談会

| 21年度 月.日 | 発 表 者 | 内 容 |
|----------|-------|---------------------|
| 12.18 | 高橋 史恵 | ・ヤマビルに出会ったら …… |
| | 渡辺 和子 | ・健康食品からの問題提起 |
| | 小林 浩 | ・甲府盆地地下水の水質状況 |
| | 堀内 雅人 | ・山梨県における環境放射能 |
| | 清水 源治 | ・山梨県のSPM濃度の推移とPM2.5 |

平成 21 年度研究課題評価

1. 評価委員会の開催

【第 1 回課題評価委員会】

開催日時 平成 21 年 7 月 21 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 4 時
場所 衛生公害研究所 研修室
出席者 外部評価委員 4 名
評価内容 平成 20 年度に終了した研究課題（事後評価 3 題）

【第 2 回課題評価委員会】

開催日時 平成 21 年 10 月 1 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 4 時
場所 衛生公害研究所 研修室
出席者 外部評価委員 5 名
評価内容 平成 22 年度から開始する研究課題（事前評価 3 題）

2. 外部評価委員

副委員長 風間 ふたば : 山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授
高相 和彦 : 山梨県厚生連健康管理センター 医師
委員長 平山 公明 : 山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授
山縣 然太郎 : 山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授
横森 洋一 : サントネージュワイン（株） 品質保証部長

3. 評価方法

課題評価は「各評価内容について 5 段階（5：優れている，4：良好，3：概ね良好，2：部分的見直しを要す，1：全面的見直しを要す）で評価後，総合評価しコメントを付す」ことになっている。

- 事前評価内容
1. 調査研究目的の妥当性
 2. 厚生・環境科学における学術的意義
 3. 目的達成のための手法，計画，体制
 4. 衛生行政・環境行政への寄与
 5. 県民，社会的ニーズへの対応
- 事後評価内容
1. 調査研究の目的・目標の達成度
 2. 成果の学術的意義
 3. 成果の今後への発展性
 4. 行政施策への貢献度，活用性
 5. 県民，社会的ニーズへの波及効果

4. 評価結果

1. 第 1 回課題評価委員会評価（事後評価）

（1）結果（評価対象課題の概要は当所ホームページをご覧ください。）

評価の対象となった 3 課題の総合評価は 3 題とも「4：良い」との評価であった。

(2) 課題と総合評価点及び総合評価コメント

| | |
|----------|--|
| 課 題 | 本県環境中における病原性自由生活アメーバ調査 - 病原性 <i>Naegleria</i> 属アメーバ調査 - |
| 総合評価点 | 4 |
| 総合評価コメント | 培養方法を工夫して問題のアメーバを発見したことを高く評価する。今後とも研究を継続して欲しい。併せて、国レベルでの対応の道筋をつけることの検討を希望する。 |
| 課 題 | 遺伝子解析によるノロウイルス下痢症の疫学的検討 |
| 総合評価点 | 4 |
| 総合評価コメント | 遺伝子解析により、重要な基礎データを蓄積する意義を認める。ジェノタイプが判明することの意義や、予防に向けた活用法への提言を期待したい。 |
| 課 題 | 発生源周辺を含めた甲府盆地の VOC 汚染実態調査 |
| 総合評価点 | 4 |
| 総合評価コメント | 平成22年度からの排出規制に向けて、調査の意義は大きい。継続した調査を期待する。他の指標（風や標高など）との関連なども検討する必要がある。 |

2. 第2回課題評価委員会評価（事前評価）

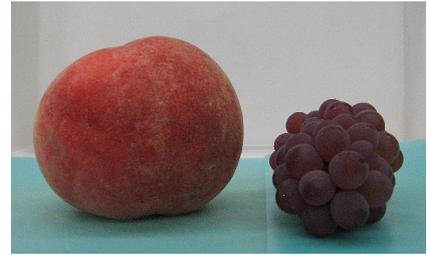
(1) 結果（評価対象課題の概要は当所ホームページをご覧ください。）

評価の対象となった3課題の総合評価は3題とも「4：良い」との評価であった。

(2) 課題と総合評価点、総合評価コメント及び所の対応

| | |
|----------|--|
| 課 題 | 山梨県内に流通する食品中の無機物実態調査 |
| 総合評価点 | 4 |
| 総合評価コメント | 前回の調査からは10年経過しているため、食品に関する基本的な調査である本調査をおこなう意義を認める。県民の健康に関わる重要な調査である。科学的な視点の強化、毒性に関わる安全性の確認、重点的な調査が必要な項目等に配慮した調査・解析方法を検討することを期待する。 |
| 所の対応 | 科学的な視点から、毒性に関わる安全性、重点的な調査が必要な項目等に配慮しつつ調査研究を進めていきたい。 |
| 課 題 | 甲府市および周辺地域での蚊類の生息調査 |
| 総合評価点 | 4 |
| 総合評価コメント | 気候変動に伴う生態系の変化の一つとして蚊の生息種類と生息域の調査は、人や物資の移動のグローバル化とも相まって、注目すべきもので、重要な調査だと考える。調査方法と結果の検討に関しては科学的な側面を強化することを期待するとともに、ウイルス疾患との関連性も視野に入れて取り組んでほしい。 |
| 所の対応 | 調査地点と捕集方法を再度検討し、調査研究を進めていきたい。今後、ウイルス検査についても検討していきたい。 |
| 課 題 | 山梨県における外来底生生物調査 |
| 総合評価点 | 4 |
| 総合評価コメント | 外来生物の環境への影響は予測が困難である。影響が顕在化する以前に本調査をおこなうことは基本的な状況を把握する上で重要だと考える。外来生物の存在が確認できた際には継続的な調査も必要になると思われるが、分布把握のための広範囲の調査をめざすのか、現象の詳細な解析をめざすかなど、方向性を絞った調査を検討する必要がある。 |
| 所の対応 | 両種の予備調査の結果を踏まえて、分布調査を実施する。プラナリアについては、水生生物調査の測定地点で調査を行う。 |

生活科学部



試験検査 実績

| 区分 | 小区分 | 行政試験 | | 依頼試験 | | 合計 | | 備考 | |
|---------|------------|---------|--------|--------|-----|-----|--------|--------|-------------|
| | | 検体数 | 項目数 | 検体数 | 項目数 | 検体数 | 項目数 | | |
| 用水・温泉科 | 飲用水・用水等の試験 | 水道水試験 | 50 | 1,545 | 0 | 0 | 50 | 1,545 | |
| | | 一般飲料水試験 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | |
| | | 用水試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 温泉分析 | 温泉分析 | 23 | 395 | 4 | 184 | 27 | 579 | |
| 科 計 | | 75 | 1,942 | 4 | 184 | 79 | 2,126 | | |
| 食品・医薬品科 | 食品等試験 | 残留農薬試験 | 180 | 35,270 | 0 | 0 | 180 | 35,270 | 含:モニタリング調査 |
| | | その他 | 5 | 28 | 0 | 0 | 5 | 28 | 苦情食品, GLP 等 |
| | 医薬品試験 | 医薬品等の試験 | 4 | 26 | 0 | 0 | 4 | 26 | |
| | 科 計 | | 189 | 35,324 | 0 | 0 | 189 | 35,324 | |
| 部 計 | | 264 | 37,266 | 4 | 184 | 268 | 37,450 | | |

(1) 用水・温泉科

山梨県水道水質管理計画に基づく水質監視

福祉保健部衛生薬務課が策定した平成 21 年度水質管理計画に基づき、県内の水道水源を 6 月(24 定点)と 9 月(26 定点)に採水し、水質管理目標設定項目の農薬類について調査した。水質管理目標設定項目の農薬類はすべての定点で指針値を下回っていた。

山梨県水道水質管理計画に基づく精度管理

県内で水道水質試験を実施している機関を対象に平成 21 年度外部精度管理調査を実施した。この調査に参加した機関は、衛生監視指導センター検査第 1 課および第 2 課、甲府市水道局、衛生公害研究所の 4 機関であった。今年度の実施項目は、濁度、硬度、カドミウム、ヒ素の 4 項目について行った。これらの項目については全て良好な結果が得られた。終了後、当所の解析結果を踏まえて報告会と研修会を開催し、検査精度の向上をめざした。

水道原水試験

行政試験として 2 検体のクリプトスポリジウムおよびジアルジアの検査を行った。いずれも不検出であった。

温泉の定時・定点調査

温泉資源の保護および有効利用のための基礎資料を蓄積するために、既存温泉の定時・定点調査を昭和 60 年度から行ってきた。平成 21 年度も森林環境部大気水質保全課と共同で、中北および峡東林務環境事務所管内の 22 定点について、検水を採取して主要成分を分析した。

温泉分析

本年度は依頼試験として 4 件、行政試験として 1 件の分析を行った。4 件は温泉に該当したが、1 件は温泉に該当しなかった。

(2) 食品・医薬品科

食品残留農薬試験

福祉保健部衛生業務課が策定した平成 21 年度食品衛生監視指導計画に基づき、県内産の農産物(果実・野菜等)・加工食品(ミネラルウォーター・果汁・冷凍野菜)155 件(内県外産 5 件)と輸入食品 53 件について、概ね 220 種類の農薬を試験した。すべての検体が残留基準以下であった(資料 表 1, 2, 3)。

畜水産食品中の残留有害物質モニタリング検査

平成 21 年度食品衛生監視指導計画に基づき、県内産の牛肉・豚肉・鶏肉 25 件について、43 種類の農薬について検査したが、すべての検体が残留基準以下であった。

その他の食品衛生等に係わる試験

保健所から依頼された苦情食品試験として、ミネラルウォーター 2 件の試験を 8 月と 1 月に実施した。ミネラルウォーターの成分規格試験、異物および異臭試験を行い、異物成分はケイ酸とマグネシウム、臭気成分はオクタナールと同定した。また、9 月には、ゼリー中の異物(クロゴキブリ)に関する試験を行った。

医薬品等の試験

9 月に行われた「平成 21 年度医薬品等一斉取締り」では、保健所が収去した医薬品 1 件について規格等の試験検査を実施した。

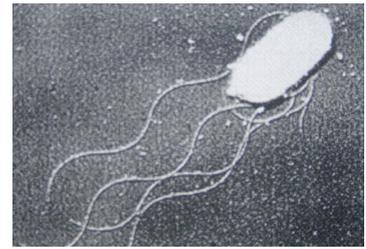
また「平成 21 年度医療機器一斉取締り」で収去した、真空採血管 1 件について、それぞれ溶出物試験、日本工業規格試験(一部)を実施したが、試験した全ての検体が基準に適合していた。

その他、医薬品製造販売承認に係る「規格及び試験方法」、「試験成績書」の審査を、医療用ガス(液体酸素)1 件について行った。また、苦情依頼試験として、健康食品中の医薬品成分(強壮, 男性ホルモン)シルデナフィル等 7 物質の試験を行った。

食品衛生外部精度管理調査

食品衛生法により当所は食品衛生検査施設に該当する。データの信頼性を確保するために、業務管理の一環として、厚生労働省が指定した財団法人食品薬品安全センターの外部精度管理調査に参加した。平成 21 年度の対象物質はマラチオン、クロルピリホス、チオベンカルブであり、結果は良好であった。

微生物部



試験検査 実績

| 科名 | 区分 | 小区分 | 行政試験 | | 依頼試験 | | 合計 | | 備考 | |
|---------|---------------|-----------|----------|--------|-------|-----|-------|--------|-------|--|
| | | | 検体数 | 項目数 | 検体数 | 項目数 | 検体数 | 項目数 | | |
| 衛生動物科 | 地方病検査 | 感染貝調査 | - | - | - | - | - | - | | |
| | | 宮入貝定点調査 | - | - | - | - | - | - | | |
| | | マウス浸漬調査 | - | - | - | - | - | - | | |
| | その他の寄生虫検査 | | 0 | 0 | - | - | 0 | 0 | | |
| | 衛生動物検査 | | 0 | 0 | - | - | 51 | 51 | | |
| 花粉飛散量調査 | | 125 | 250 | - | - | 125 | 250 | | | |
| 科 計 | | | 125 | 250 | 0 | 0 | 176 | 301 | | |
| 細菌科 | 細菌検査 | 一般細菌検査 | 18 | 54 | - | - | 18 | 54 | | |
| | | 赤痢菌検査 | 1 | 5 | - | - | 1 | 5 | | |
| | | チフス菌検査 | 0 | 0 | - | - | 0 | 0 | | |
| | | コレラ菌検査 | 0 | 0 | - | - | 0 | 0 | | |
| | | 薬剤耐性検査 | 8 | 128 | - | - | 8 | 128 | | |
| | | 志賀毒素検査 | 4 | 24 | - | - | 8 | 47 | | |
| | | 結核菌検査 | 0 | 0 | - | - | 0 | 0 | | |
| | 食品衛生検査 | 食中毒集団下痢検査 | 490 | 8,820 | - | - | 490 | 8,820 | | |
| | | 食品検査 | 5 | 21 | - | - | 5 | 21 | | |
| | 医薬品等検査 | 無菌試験 | 1 | 4 | - | - | 1 | 4 | | |
| 科 計 | | | 527 | 9,056 | 0 | 0 | 531 | 9,079 | | |
| ウイルス科 | 日本脳炎流行予測調査 | 血清検査 | 70 | 70 | - | - | 70 | 70 | | |
| | インフルエンザ流行予測調査 | 血清検査 | 161 | 644 | - | - | 161 | 644 | | |
| | 風疹流行予測調査 | 血清検査 | 0 | 0 | - | - | 0 | 0 | | |
| | 感染症発生動向調査 | 定点 | ウイルス分離検査 | 474 | 7,110 | - | - | 474 | 7,110 | |
| | | 定点以外 | ウイルス分離検査 | 374 | 5,610 | - | - | 374 | 5,610 | |
| | 集団発生検査 | ウイルス分離検査 | 0 | 0 | - | - | 0 | 0 | | |
| | | 血清検査 | 0 | 0 | - | - | 0 | 0 | | |
| | 抗体検査 | エイズ血清検査 | 8 | 16 | - | - | 8 | 16 | | |
| 風疹血清検査 | | 0 | 0 | - | - | 0 | 0 | | | |
| 食品衛生検査 | 食中毒集団下痢検査 | 718 | 3,590 | - | - | 718 | 3,590 | | | |
| 科 計 | | | 1,805 | 17,040 | 0 | 0 | 1,805 | 17,040 | | |
| 部 計 | | | 2,457 | 26,346 | 0 | 0 | 2,512 | 26,420 | | |

(1) 衛生動物科

衛生動物等に関する調査

被害原因虫の同定、駆除法や生態についての問い合わせは昆虫類 30 件、ダニ類 3 件、その他 12 件、計 45 件であった。

また、食品への異物混入による検査依頼は 6 件で、全体の 12% を占めた。食品中の異物の約 80% は昆虫類であった。

(資料 表 4)

空中花粉調査

甲府市内で実施した今季(2010.1.4~2010.5.9)の飛散量の累計は、スギ花粉 548.5 個、ヒノキ花粉 149.2 個であった。これは昨年(それぞれ 3288.0 個、1466.7 個)に比べ、スギ花粉、ヒノキ花粉ともに非常に少ない飛散となった。

(資料 表 5)

(2) 細菌科

感染症等に関する検査

三類感染症のうち、腸管出血性大腸菌 6 株が分離された。

(資料 表 6)

食中毒・集団下痢症等の検査

5 月~9 月にかけて飲食店の料理を原因とする食中毒検査を行い、患者からカンピロバクターが分離された。年間を通じてノロウイルスを原因とする食中毒及び集団下痢症が多発し、細菌検査も並行しておこなったが、病原菌は検出されなかった。

(資料 表 7)

食品・医薬品等に関する検査

食品苦情に係わる検査を 5 件実施し、清涼飲料水パックから *Cladosporium* 属が検出された。また無菌試験を医療機器 1 検体について実施したが、結果は陰性であった。

(資料 表 8)

腸管出血性大腸菌 O157 等の志賀毒素検査

本年度は計 6 名から志賀毒素産生菌が検出された。血清型と志賀毒素型の組み合わせは、O157:H7 Stx 1.2 が 4 株、O157:HNM Stx 1.2 が 2 株であった。

(資料 表 9)

(3) ウイルス科

日本脳炎流行予測調査

平成 21 年 7 月から 9 月にかけて 7 回にわたり、県内産の生後 6 ヶ月の豚 10 頭ずつ計 70 頭から血清を得た。血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体価を赤血球凝集抑制(HI)反応により測定し、山梨県が日本脳炎ウイルスで汚染されているかどうかを調べた。その結果、9 月 29 日以降、豚の HI 抗体の保有がみられ、本県は日本脳炎汚染地区であると推定された。

(資料 表 10)

インフルエンザ流行予測感受性調査

平成 21 年 9 月から 11 月にかけて採血された山梨県民 161 名の血清について、本年度のインフルエンザワクチン株 4 株[A/ブリスベン/59/2007 H1N1 亜型、A/カリフォルニア/7/2009H1N1pdm、A/ウルグアイ/716/2007 H3N2 亜型、B/ブリスベン/60/2008 B 型(ピクトリア系統)]と B/フロリダ/4/2006 B 型(山形系統株)を加えた計 5 株に対する赤血球凝集抑制(HI)抗体価を測定した。A(H1)ソ連型である A/ブリスベン株に対する有効感染防御抗体(HI 抗体価 40)の保有率は 5~9 歳から 15~19 歳の 3 つの年齢群で 66.7~90.0% と高かった。他の年齢群では、50~59 歳で、24.0% と比較的低いものの、それ以外の年齢群では中程度から比較的高い抗体保有率であった。すべての年齢群における平均は 49.1% であり、調査した季節性インフルエンザのウイルスのうち 2 番目に高い抗体保有率であった。新型インフルエンザである A/カリフォルニアに対する有効感染防御抗体の保有率は、低かったが、5~9 歳、10~14 歳、15~19 歳、50~59 歳及び 60 歳以上で 10.0~12.5% の抗体保有が認められた。その他の年齢群では、0~8.0% の保有率であった。抗体が検出されたことは全国的な流行の拡大にともなう感染者が含まれたためと考えられた。新型インフルエンザが流行している状況のなか速やかなワクチン接種が望まれた。A(H3)香港型である A/ウルグアイ株に対する有効感染防御抗体の保有率は、5~9 歳で 87.5%、10~14 歳で 80.0% と高かった。15~19 歳、30~39 歳、40~49 歳で中程度から比較的高い抗体保有率であったが、それ以外の年齢層では比較的低い抗体保有率であった。調査した季節性インフルエンザのウイルスのうち 2 番目に低い抗体保有率(34.2%)であったため、ワクチン接種が必要と考えられた。B/ブリスベン株に対する 40 倍以上の抗体保有率は、5~9 歳で 62.5%、30~39 歳で 60.0% と

高かった。10～14歳、20～29歳、40～49歳の年齢層で中程度から比較的高い抗体保有率であった。それ以外の年齢層では8～24.0%と低かった。調査した季節性インフルエンザのウイルスのうち最も低い抗体保有率(32.9%)であったため、B型ウイルスについても、ワクチン接種を受ける等、流行に対する警戒が必要であると考えられた。B/フロリダ株に対する40倍以上の抗体保有率は、50～59歳の年齢群以外で、40.0～90.0%と高かった。すべての年齢群における平均は57.8%であり、調査した季節性インフルエンザのウイルスのうち最も高い抗体保有率であった。

(資料表11)

感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況

平成21年度に山梨県内の医療機関で感染症罹患患者から採取された検体について、HEp-2、RD-18S、HeLa、Vero、MDCKおよびCaCo-2細胞を用いたウイルス分離を行った。分離ウイルスについて中和法、蛍光抗体法、赤血球凝集抑制(HI)反応、PCR法によりウイルス同定を行った。また、リアルタイムPCR法によるノロウイルスの遺伝子検出を行った。

本年度、新型インフルエンザウイルスは5月から分離され始め、11月にピークを示した。季節性インフルエンザウイルスは7月にA(H1)型、A(H3)型が分離されたのち分離されなかった。新型インフルエンザウイルスが主流を占めた。(資料表12)

食中毒・集団下痢症のウイルス検査

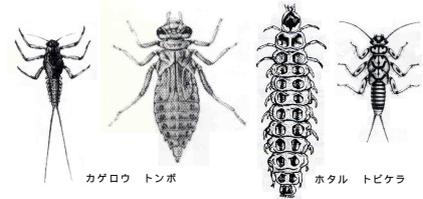
平成21年度に保健所から依頼された食中毒、集団下痢症65事例の糞便、吐物、食品についてイムノクロマト法、リアルタイムPCR法およびRT-PCR法によるウイルス検出を行った。その結果、47事例からノロウイルスが検出され、G型がほとんどを占めた。また、ノロウイルスとサポウイルスが同時に検出された事例、サポウイルスが単独で検出された事例が各1件、A群ロタウイルスが検出された事例が2事例あった。

(資料表13)

血清検査

平成21年度に保健所等から依頼された8件の血清についてHIV抗体検査を行った。

環境科学部



試験検査 実績

| 区分 | 小区分 | 行政試験 | | 依頼試験 | | 合計 | | 備考 | |
|--------|--------|----------|--------|--------|-----|-------|--------|--------|-------------|
| | | 検体数 | 項目数 | 検体数 | 項目数 | 検体数 | 項目数 | | |
| 水質科 | 環境水質試験 | 河川水・地下水 | 53 | 1,019 | | | 53 | 1,019 | 水質要監視項目 |
| | | 富士五湖 | 275 | 12,250 | | | 275 | 12,250 | |
| | | 環境影響 | 2 | 20 | | | | | 水生生物 |
| | | モニタリング | 76 | 586 | | | | | |
| | 排水試験 | 事業場排水 | 378 | 2,641 | | | 378 | 2,641 | |
| | | 処理施設放流水 | 86 | 1,327 | | | 86 | 1,327 | |
| | その他 | 事故, 苦情等 | 40 | 166 | | | 40 | 166 | 魚のへい死, 等 |
| | | 受託調査 | 3 | 6 | | | 3 | 6 | 環境省 |
| 水質科計 | | 913 | 18,015 | | | 913 | 18,015 | | |
| 大気科 | 環境大気試験 | 大気汚染常時監視 | 4,745 | 35,040 | | | 4,745 | 35,040 | 13局 |
| | | 有害大気汚染物質 | 60 | 540 | | | 60 | 540 | |
| | | アスベスト | 8 | 24 | | | 8 | 24 | |
| | | 環境影響 | 10 | 10 | | | 10 | 10 | 植物影響等 |
| | | 騒音常時監視 | 12 | 24 | | | 8 | 8 | 自動車騒音 |
| | 発生源試験 | 固定発生源 | 19 | 73 | | | 19 | 73 | 煙道立ち入り等 |
| | | 悪臭 | 7 | 35 | | | 7 | 35 | パネル試験 |
| | その他 | 事故, 苦情等 | 3 | 3 | | | 3 | 3 | 大気汚染, 騒音, 等 |
| | | 共同調査 | 10 | 85 | | | 10 | 85 | PM2.5 |
| | | 受託調査 | 6 | 9 | | | 6 | 9 | 環境省 |
| 大気科計 | | 4,880 | 35,843 | | | 4,880 | 35,843 | | |
| 特殊物質科 | 廃棄物試験 | 廃棄物 | 5 | 40 | | | 5 | 40 | 焼却灰 |
| | 土壌汚染 | モニタリング | 1 | 5 | | | 1 | 5 | |
| | 化学物質試験 | 環境汚染 | 46 | 184 | | | 46 | 184 | 環境ホルモン |
| | 放射能試験 | 放射能常時監視 | 365 | 365 | | | 365 | 365 | 1局 |
| | | 環境試料 | 36 | 936 | | | 36 | 936 | |
| | | 降水 | 96 | 96 | | | 96 | 96 | |
| | 精度管理試験 | 模擬試料 | 14 | 88 | | | 14 | 88 | 放射能, SPM等 |
| | その他 | 事故, 苦情等 | 3 | 93 | | | 3 | 93 | 土壌汚染, 等 |
| 特殊物質科計 | | 566 | 1,807 | | | 566 | 1,807 | | |
| | | 6,359 | 55,665 | 0 | 0 | 6,359 | 55,665 | | |

(1) 水質科

環境水質試験

河川、湖沼の公共用水域と地下水について延べ 53

地点のクロロホルムなど要監視項目を測定した。湖沼の水質保全を目的に、富士五湖の延べ 275 地点で水質を調査した。これらは、「やまなしの環境」で公表される。

また水生生物調査法研修を 2 回行った。さらに土砂崩落やミニ処分場などの影響や経過を知るため、延べ 76 地点で水質をモニタリングした。

排水試験

事業場の排水延べ 378 検体、し尿処理施設、最終処分場などの放流水延べ 86 検体の検査を行った。これらは「やまなしの環境」で公表される。

苦情,事故に伴う検査

水質汚濁の事故や苦情で持ち込まれた延べ 40 検体について試験を行った。(資料 表 15)

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内の河川で低質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

(2) 大 気 科

環境大気試験

大気汚染常時監視局 13 局の機器の稼働状況を監視し、データの確定作業を行った。また測定局の補間を目的に、オキシダント濃度を測定した。

ベンゼンなど有害大気汚染物質 9 物質について延べ 60 検体を測定した。

アスベストは、一般環境の延べ 8 地点で濃度を測定した。

光化学スモッグの植物影響を知るために、甲府市内など 10 小中学校等でアサガオを観察した。

また、自動車騒音の常時監視を行った 12 地点のデータ確定作業を行った。

以上の結果は、「やまなしの環境」で公表される。

発生源試験

事業場の煙道延べ 19 施設で窒素酸化物などの検査を行った。結果は「やまなしの環境」で公表される。

また悪臭の苦情に対応するために、パネル選定試験を林務環境事務所などの職員 7 名に行った。

苦情,事故に伴う検査

騒音と悪臭について 3 検体の試験を行った。(資料 表 15)

共同調査

関東甲信静の各都県市の一般環境で PM2.5 を捕集しその成分を分析した。この結果は関東地方環境対策推進本部から公表される。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、富士吉田市内で粉じんを採取した。調査結果は環境省から公表される。

(3) 特殊物質科

廃棄物試験

一般廃棄物焼却施設の焼却灰 5 検体について試験を行った。

土壌汚染

土壌汚染の経過を知るため、1 地点で水質をモニタリングした。

化学物質試験

ビスフェノール A など内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)について、河川水 46 検体を測定した。結果は「やまなしの環境」で公表される。

放射能試験

文部科学省の事業としてモニタリングポスト 1 局で放射線を常時監視した。また、土壌や食品、飲用水など環境試料延べ 36 検体の放射性元素を測定した。さらに月間降下物、大気浮遊じん、降水、空間線量を延べ 96 回測定した。以上の結果は、文部科学省から公表される。

精度管理試験

環境省と文部科学省から配布された環境試料と放射能試料の計 14 検体を測定し、分析精度を確認した。

苦情,事故に伴う検査

不法投棄や土壌汚染が疑われる事故や苦情について 3 検体の試験を行った。(資料 表 15)

資 料

- 表 1 平成21年度 県産食品残留農薬試験結果
- 表 2 平成21年度 県外産食品残留農薬試験結果
- 表 3 平成21年度 輸入食品残留農薬試験結果
- 表 4 平成21年度 衛生動物・寄生虫検査結果
- 表 5 平成22年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量
- 表 6 平成21年度 細菌感染症等に関する検査結果
- 表 7 平成21年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果
- 表 8 平成21年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果
- 表 9 平成21年度 腸管出血性大腸菌感染症志賀毒素型
- 表10 平成21年度 日本脳炎流行予測調査
- 表11 平成21年度 インフルエンザ流行予測調査結果
- 表12 平成21年度 月別ウイルス検出状況と臨床像
- 表13 平成21年度 集団かぜ発生時のウイルス検索
- 表14 平成21年度 環境汚染に係る苦情、事故に伴う検査

表1 平成21年度 県産食品残留農薬試験結果

| 食品名 | トマト | おうとう | すもも | スイートコーン | もも | ぶどう |
|----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|------------------|----------------|
| 検体数 | 3 | 6 | 10 | 4 | 14 | 16 |
| アセタミプリド | 0.07(1) | | | | | |
| イプロジオン | | 0.03 ~ 2(2) | 0.08(1) | | | |
| イミダクロプリド | 0.007(1) | | 0.03 ~ 0.04(4) | 0.03(1) | 0.03(4) | 0.03 ~ 0.06(7) |
| イミベンコナゾール | | | | | | 0.05 ~ 0.09(2) |
| エトフェンプロックス | | | | | 0.01(1) | |
| クレソキシムメチル | | | | | | |
| クロキントセットメキシル | | | | | 0.008(1) | |
| クロチアニジン | | | | | | 0.007(1) |
| クロルピリホス | | | 0.02 ~ 0.07(2) | | 0.01(2) | 0.01(1) |
| シアゾファミド | | | | | | |
| ジエトフェンカルブ | 0.08(1) | | | | | |
| シプロジニル | | | | | | 0.06 ~ 0.09(4) |
| シベルメトリン | | | | | | |
| スピノサド | | | | | | |
| ダイアジノン | | | | | | 0.007(1) |
| チアクロプリド | | | 0.03 ~ 0.04(3) | | 0.02 ~ 0.07(9) | 0.04 ~ 0.05(2) |
| チアトキサム | | | | | | |
| テブコナゾール | | | | | 0.03(3) | 0.02(1) |
| テブフェンピラド | | 0.07(1) | | | | |
| デルタメトリン及び トラロメトリン | | 0.002 ~ 0.02(5) | 0.04(1) | | | |
| ピテルタノール | | | | | 0.03(1) | |
| ピフェントリン | | 0.05(3) | 0.009(1) | | 0.02(1) | |
| ピリダベン | 0.007 ~ 0.01(2) | | | | | |
| フェンピロキシメート | | | | | | |
| フェンコナゾール | | 0.02 ~ 0.06(3) | 0.005 ~ 0.03(5) | | 0.02(1) | 0.01(1) |
| ブプロフェジン | 0.02(1) | 0.003(2) | 0.02 ~ 0.09(6) | | 0.02 ~ 0.03(2) | |
| フラチオカルブ | | | | | 0.005(1) | |
| フルバリネート | | 0.4(1) | | | | |
| フルフェノクスロン | | | | | 0.001 ~ 0.02(10) | |
| プロシミドン | 0.1(2) | | | | | |
| プロボキスル | | | | | 0.006(1) | |
| プロモプロピレート | | | | | 0.02(1) | |
| ヘキサコナゾール | | 0.03 ~ 0.07(4) | | | | |
| ベルメトリン | | 0.04 ~ 0.6(6) | 0.02(1) | | | 0.02(1) |
| ホスチアゼート | 0.008(1) | | | | | |
| メチダチオン | | | 0.008(1) | | | |
| メトキシクロール | | | | | 0.02(1) | |

()内は検出数

(単位:ppm)

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

豚の筋肉(10)、牛の筋肉(10)、鶏の食用部分(5)、レタス(1)、ミネラルウォーター(13)、なす(3)、だいこん類の根(2)、キウイ(4)

()内は検体数

表1 平成21年度 県産食品残留農薬試験結果 (続き)

| 食品名 | きゅうり | かき | ほうれんそう | ぶどう果汁 | いちご |
|----------------------|---------|---------|---------------|---------|----------|
| 検体数 | 3 | 4 | 2 | 10 | 2 |
| アセタミプリド | | | | | |
| イプロジオン | | | | | |
| イミダクロプリド | | | 0.06 ~ 0.2(2) | 0.04(1) | |
| イミベンコナゾール | | | | | |
| エトフェンプロックス | | | | | |
| クレソキシムメチル | | 0.05(1) | | | |
| クロキントセットメキシル | | | | | |
| クロチアニジン | | | | | |
| クロルピリホス | | | | | |
| シアゾファミド | | | 1(1) | | |
| ジエトフェンカルブ | | | | | |
| シプロジニル | | | | | |
| シベルメトリン | | | 0.5(1) | | |
| スピノサド | | | | | 0.02(1) |
| ダイアジノン | | | | | |
| チアクロプリド | | | | | |
| チアマトキサム | 0.04(2) | | | | |
| テブコナゾール | | 0.01(1) | | | |
| テブフェンピラド | | | | | 0.1(1) |
| デルタメトリン及び トラロメトリン | | | | | |
| ピテルタノール | | | | | |
| ピフェントリン | | 0.02(1) | | | |
| ピリダベン | | | | | |
| フェンピロキシメート | | | | | 0.003(1) |
| フェンブコナゾール | | | | | |
| ブプロフェジン | | | | | |
| フラチオカルブ | | | | | |
| フルバリネート | | | | | |
| フルフェノクスロン | | | 0.003(1) | | |
| プロシミドン | | | | | |
| プロボキスル | | | | | |
| プロモプロピレート | | | | | |
| ヘキサコナゾール | | | | | |
| ペルメトリン | | | | | |
| ホスチアゼート | | | | | |
| メチダチオン | | | | | |
| メトキシクロール | | | | | |

(単位:ppm)

表2 平成21年度 県外産食品残留農薬試験結果

| 食品名 | レタス | はくさい |
|----------|---------|----------------|
| 検体数 | 1 | 2 |
| イミダクロプリド | 0.03(1) | 0.03 ~ 0.04(2) |
| オキサジキシル | | 0.03(1) |
| チアトキサム | | 0.03(1) |
| トルフェンピラド | | 0.003(1) |

()内は検出数

(単位:ppm)

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

キャベツ(2)

表3 平成21年度 輸入食品残留農薬試験結果

| 食品名 | かぼちゃ | アメリカン チェリー | 冷凍 えだまめ | 冷凍 いんげん | バナナ | ブロッコリー | パプリカ | グレープ フルーツ | レモン | オレンジ |
|------------|----------|---------------|-----------------|------------|----------|-------------------|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 検体数 | 3 | 1 | 5 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| イミダクロプリド | | | 0.003(1) | | | 0.05 ~ 0.07(2) | 0.01 ~ 0.02(2) | 0.005(1) | 0.001(1) | |
| インドキサカルブ | | | | | | | 0.03(1) | | | |
| エトフェンブロックス | | | 0.02(1) | 0.07(1) | | | | | | |
| キノキシフェン | 0.006(1) | | | | | | | | | |
| クロチアニジン | | | | | 0.07(1) | | 0.03(1) | | | |
| クロルピリホス | | | | | 0.02(1) | | | | | |
| クロルフェナピル | | | | | | | 0.1(1) | | | |
| シベルメトリン | | | 0.1 ~ 0.4(2) | | | | | | | |
| チアトキサム | | | | | 0.06(1) | | 0.03(1) | | | |
| チアベンダゾール | | | | | | | | 0.2 ~ 0.5(2) | 0.1 ~ 0.3(2) | 0.4 ~ 0.5(2) |
| テトラコナゾール | | | | | | | 0.02(1) | | | |
| テブコナゾール | | 0.01(1) | | | | | 0.05(1) | | | |
| ピテルタノール | | | | | 0.009(1) | | | | | |
| ピフェントリン | 0.003(1) | | | | | | | | | |
| ピリダベン | | | | | | | 0.1(1) | 0.01(1) | | |
| フェンバレレート | | | | | | | 0.06(1) | | | |
| フルフェノクスロン | | | | 0.003(1) | | | | | | |
| ペルメトリン | 0.004(1) | | | | | | | | | |
| マイクロブタニル | 0.005(1) | | | | | | | | | |

(単位:ppm)

以下の食品から農薬は検出されなかった。

アボガド(3)、マンゴー(1)、冷凍さといも(3)、冷凍らっかせい(1)、冷凍にんじん(1)、冷凍ブルーベリー(1)、冷凍ねぎ(1)、
冷凍かぼちゃ(1)、冷凍ブロッコリー(1)、冷凍スイートコーン(1)、アスパラガス(5)、キウイ(3)、冷凍ほうれんそう(1)、
パイナップル(3)

()内は検体数

表4 平成21年度 衛生動物・寄生虫検査結果

| 月.日 | 依頼機関 | 数量 | 結果 | 備考 | 区分 |
|------|----------------|----|-------------------|------------------------|------|
| 4. 2 | 甲府市 | 2 | ヤマトシロアリ | 柱から羽アリ | B, a |
| 4.20 | 甲府市 | 1 | トビケラ類(成虫) | 不快害虫(室外から多数の虫) | B, a |
| 4.20 | 甲府市 | 1 | トビケラ類(成虫) | 不快害虫(室外から多数の虫) | B, a |
| 4.21 | 富士・東部HC | 1 | ウマノオバチ(成虫) | 見たことがないハチ | B, a |
| 4.28 | 県民 | 1 | 電話相談 | トコジラミ疑い | B, a |
| 5. 1 | 県民 | 1 | 電話相談 | ヤマビル忌避剤について | B, a |
| 5. 1 | 甲府市民 | 1 | トコジラミ(ナンキンムシ) | 虫の同定依頼 | B, a |
| 5. 1 | 甲府市 | 1 | 電話相談 | スズメバチ問い合わせ | B, a |
| 5. 7 | 森林環境総務課 | 1 | 問い合わせ | ヒル類の調査の有無について | B, c |
| 5. 8 | 民間企業 | 1 | 問い合わせ | 日本住血吸虫対応参考等について | D, c |
| 5.11 | 民間企業 | 1 | 問い合わせ | 地方病終息の碑について | D, c |
| 5.15 | 中北HC | 1 | クロオオアリ(羽アリ) | 集団発生し、不快。咬まれるか心配 | B, a |
| 5.19 | 峡東HC | 1 | 同定不能(ナメクジ) | 苦情食品(食品中の異物) | A, c |
| 5.19 | 峡北支所 | 2 | シロアリ | 同定依頼 | B, a |
| 5.21 | 動物愛護 指導センター | 1 | ヒメマル カツオブシムシ成虫 | 同定依頼 | B, a |
| 5.25 | 甲府市民 | 2 | テントウムシ幼虫 | 庭にみたことがない気持ち 悪い虫がいる | B, a |
| 5.25 | 県民 | 1 | 電話相談 | イエダニ類駆除方法 | B, b |
| 6.16 | 中北HC | 19 | カドマル カツオブシムシ成虫 | 居間、トイレに虫が大量発生 | B, a |
| 6.17 | 富士・東部HC | 1 | ユスリカ対策 | 電話相談 | B, a |
| 6.24 | 富士・東部HC | 1 | シバンムシ 成虫 | 居間、トイレに虫が大量発生 | B, a |
| 6.29 | 韮崎市民 | 1 | 電話相談 | ヤマビル忌避剤について | B, c |
| 7. 1 | 中北HC | 1 | フタトゲチマダニ | 室内のソファに虫 | B, c |
| 7. 3 | 中北HC | 1 | ヒラチャタテ | 居間に虫 | B, a |
| 7. 3 | 中北HC | 1 | ガ類幼虫(同定困難) | 居間に虫 | B, a |
| 7. 1 | 県民 | 1 | ヨトウムシ | トマト葉にイモ虫 | B, a |
| 7.17 | 甲府市民 | 1 | コウガイビル | 庭に1mくらいの変な生き物がいる | B, c |
| 7.21 | 県民 | 1 | 電話相談 | 夜室内にクモ(毒グモか?) | B, c |
| 7.24 | 県民 | 1 | メイガ類幼虫 | パン保存袋にイモムシ | A, a |
| 7.28 | 中北HC | 8 | フタトゲチマダニ | 居間にマダニが多数発生 | B, c |
| 7.29 | 中北HC | 1 | ネズミの糞ではない | 玄関前に糞(ネズミか?) | B, c |
| 8.19 | 甲府市民 | 1 | 電話相談 | 潰れたネズミが死んでいる | B, c |
| 8.21 | 甲府市 | 15 | アズキゾウムシ成虫 | 網戸に大量の虫 | B, a |
| 8.28 | 中北HC | 1 | ノミ駆除 | ノミ駆除方法 | B, a |

A: 食品異物 B: 衛生動物 C: 寄生虫 D: 電話相談 a: 昆虫類 b: ダニ類 c: その他

表4 平成21年度 衛生動物・寄生虫検査結果 (続き)

| 月.日 | 依頼機関 | 数量 | 結果 | 備考 | 区分 |
|-------|----------|----|--------------|--------------------|------|
| 9. 3 | 甲府市民 | 1 | タケノホソクロバ成虫 | 室内に大量の黒い虫 | B, a |
| 9. 4 | 峡東HC | 1 | マダニ駆除 | 電話相談 | B, b |
| 9. 4 | 衛生薬務課 | 1 | スズメバチ生態 | 電話相談 | B, a |
| 9. 7 | 中北HC | 14 | アブラコウモリ糞 | 糞の同定依頼 | B, c |
| 9. 8 | 株式会社YBS | 1 | カゲロウ | 電話取材 | B, a |
| 9. 8 | 株式会社YBS | 1 | カゲロウ | 千秋橋にて夜間大量発生した羽虫 | B, a |
| 9. 9 | 中北HC | 1 | クロゴキブリ雌成虫 | ぶどうゼリー中の虫 | A, a |
| 9.17 | 峡東HC | 1 | ショウジョウバエ雄成虫 | ワイン中の虫 | A, a |
| 9.25 | 峡北支所 | 6 | ハリノトンリクアリ雌成虫 | シロアリ疑い | B, a |
| 10. 5 | 甲府市民 | 1 | ハリガネムシ雌 | 見たことがない生き物が庭先にいた | B, c |
| 10. 5 | 甲府市民 | 1 | コウガイビル | ブロック塀をはっていた虫 | B, c |
| 10. 5 | 峡東HC | 1 | メイガ成虫 | 側溝から大量発生 | B, a |
| 10.19 | 富士・東部HC | 1 | 電話相談 | カマドウマ対策 | B, a |
| 10.21 | 富士・東部HC | 3 | ネコノミ | ノミの種類同定依頼 | B, b |
| 10.23 | 中北HC | 1 | クロゴキブリ幼虫 | 食品中異物 | A, a |
| 10.30 | 甲府市 | 4 | カメムシ類 | ブロック塀などに大量の虫 | B, a |
| 11. 9 | NHK甲府放送局 | 1 | 問い合わせ | ノミ飼育について | B, c |
| 11.11 | 中北HC | 多数 | 同定不能 | せんべいの異物 | A, c |
| 11.27 | 甲府市民 | 1 | ブユ類 | 駐車場に小さい虫の集団 | B, a |
| 1.19 | 忍野村住民 | 1 | 電話相談 | カマドウマ生態 | A, a |
| 3.29 | 出版会社 | 1 | 問い合わせ | 日本住血吸虫症診断マニュアルについて | D, c |

A: 食品異物 B: 衛生動物 C: 寄生虫 D: 電話相談 a: 昆虫類 b: ダニ類 c: その他

表4 (附表) 平成21年度 衛生動物・寄生虫 内訳

| 分類 | a: 昆虫類 | b: ダニ類 | c: その他 | 合計 |
|---------|--------|--------|--------|----|
| A: 食品異物 | 5 | 0 | 1 | 6 |
| B: 衛生動物 | 30 | 3 | 12 | 45 |
| C: 寄生虫 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 35 | 3 | 13 | 51 |

表5 平成22年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量

| 測定期間 | 月・日～月・日 | スギ・ヒノキ花粉飛散量 | | | | | 花粉量平均値 | |
|-------------|------------|-------------|-----|-----------|------|----------|--------|-----|
| | | 微量 | 少ない | やや多い | 多い | 非常に多い | スギ | ヒノキ |
| | | 0～1 | ～10 | ～30 | ～100 | 101～ | | |
| 第1週 | 1. 4～ 1.10 | 7 | | | | | 0.1 | 0.0 |
| 2 | 1.11～ 1.17 | 7 | | | | | 0.1 | 0.0 |
| 3 | 1.18～ 1.24 | 7 | | | | | 0.0 | 0.0 |
| 4 | 1.25～ 1.31 | 7 | | | | | 0.0 | 0.0 |
| 5 | 2. 1～ 2. 7 | 7 | | | | | 0.1 | 0.0 |
| 6 | 2. 8～ 2.14 | 6 | 1 | | | | 0.5 | 0.0 |
| 7 | 2.15～ 2.21 | | | 4 | 3 | | 0.5 | 0.0 |
| 8 | 2.22～ 2.28 | 1 | 2 | | 4 | | 27.8 | 0.2 |
| 9 | 3. 1～ 3. 5 | 1 | 5 | 1 | | | 7.0 | 0.1 |
| 10 | 3. 6～ 3.12 | | 4 | 3 | | | 6.5 | 0.8 |
| 11 | 3.13～ 3.19 | 2 | 4 | 1 | | | 2.7 | 1.0 |
| 12 | 3.20～ 3.26 | | 5 | 2 | | | 2.3 | 4.6 |
| 13 | 3.27～ 4. 3 | 1 | 3 | 3 | | | 2.4 | 8.5 |
| 14 | 4. 4～ 4.10 | 4 | 2 | 1 | | | 0.2 | 2.9 |
| 15 | 4.11～ 4.17 | 4 | 3 | | | | 0.2 | 2.9 |
| 16 | 4.18～ 4.24 | 2 | 5 | | | | 0.0 | 2.2 |
| 17 | 4.25～ 5. 1 | 6 | 1 | | | | 0.0 | 0.8 |
| 18 | 5. 2～ 5. 6 | 7 | | | | | 0.0 | 0.2 |
| 平成22(2010)年 | | 69 78% | 35 | 15 17% | 7 | 0 5% | 2.8 | 1.4 |
| 平成21(2009)年 | | 35 48% | 23 | 20 43% | 33 | 11 9% | 22.4 | 5.3 |
| 平成20(2008)年 | | 32 73% | 43 | 15 26% | 28 | 1 1% | 22.4 | 5.3 |
| 平成19(2007)年 | | 53 79% | 21 | 17 20% | 7 | 1 1% | 20.7 | 5.1 |
| 平成18(2006)年 | | 66 57% | 43 | 13 24% | 23 | 1 1% | 3.8 | 4.1 |

観測場所：衛生公害(環境)研究所屋上 花粉量：1 cm²あたりの換算値(個)

表6 平成21年度 細菌感染症等に関する検査結果

| 月.日 | 依頼機関 | 検査項目 | 検体数 | 結果 <株数> |
|-------|----------------|------|--------|--------------------------------------|
| 7. 1 | 甲府共立HP | EHEC | 1 (菌株) | <i>E. coli</i> 0157:H7 (Stx1,2) <1> |
| 7. 2 | 甲府共立HP | EHEC | 1 (菌株) | - |
| 8.13 | 富士・東部HC | EHEC | 2 (菌株) | <i>E. coli</i> 0157:H7 (Stx1,2) <2> |
| 8.28 | 甲府共立HP | EHEC | 1 (菌株) | <i>E. coli</i> 0157:H7 (Stx1,2) <1> |
| 10.21 | 中北HC峡北支所 | EHEC | 3 (菌株) | - |
| 12.28 | 甲府共立HP | EHEC | 1 (菌株) | <i>E. coli</i> 0157:HNM (Stx1,2) <1> |
| 12.31 | 衛生監視 指導センター | EHEC | 1 (菌株) | <i>E. coli</i> 0157:HNM (Stx1,2) <1> |
| 合計 | | | 10 | |

HC: 保健所, HP: 病院

表7 平成21年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果

| 月.日 | 依頼機関 | 検体数 | | | 計 | 検出菌 | |
|-------|----------|-------|----|-----|----|-----------------------------------|------------------|
| | | 糞便・吐物 | 食品 | その他 | | ヒト・菌株由来 (株数) | 食品・その他由来 (株数) |
| 4. 1 | 中北HC | 35 | | | 35 | - | |
| 4.30 | 中北HC | 1 | | | 1 | - | |
| 5. 4 | 中北HC峡北支所 | 1 | | | 1 | - | |
| 5.12 | 中北HC峡北支所 | 8 | | | 8 | <i>C. jejuni</i> (4) ^P | |
| 5.25 | 峡南HC | 13 | | 5 | 18 | - | - |
| 5.25 | 峡東HC | 23 | 13 | 21 | 57 | - | - |
| 5.26 | 中北HC峡北支所 | 1 | | | 1 | - | |
| 5.26 | 中北HC | 3 | | | 3 | - | |
| 6.20 | 峡東HC | 1 | | 10 | 11 | <i>C. jejuni</i> (1) ^P | - |
| 7.15 | 富士・東部HC | 1 | | | 1 | - | |
| 7.16 | 峡東HC | 1 | | | 1 | - | |
| 7.16 | 中北HC | 2 | | | 2 | - | |
| 7.29 | 富士・東部HC | 12 | | 5 | 17 | <i>C. jejuni</i> (4) ^P | - |
| 8. 5 | 中北HC | 7 | | | 7 | - | |
| 8. 5 | 富士・東部HC | 15 | | 5 | 20 | <i>C. jejuni</i> (2) ^P | - |
| 8. 5 | 峡東HC | 8 | 1 | 17 | 26 | - | - |
| 8. 6 | 富士・東部HC | 14 | | | 14 | - | |
| 8. 7 | 富士・東部HC | 20 | | 3 | 23 | - | - |
| 8. 1 | 富士・東部HC | 3 | | | 3 | <i>C. jejuni</i> (3) ^P | |
| 8.14 | 富士・東部HC | 6 | | 5 | 11 | - | - |
| 8.19 | 富士・東部HC | 1 | | 4 | 5 | - | - |
| 12.03 | 富士・東部HC | 1 | | | 1 | - | |
| 12.16 | 中北HC峡北支所 | 2 | | | 2 | - | |
| 12.16 | 中北HC | 8 | | 6 | 14 | - | - |

表7 平成21年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果 (続き)

| 月.日 | 依頼機関 | 検体数 | | | 計 | 検出菌 | |
|-------|----------|-------|----|-----|-----|-----------------|------------------|
| | | 糞便・吐物 | 食品 | その他 | | ヒト・菌株由来 (株数) | 食品・その他由来 (株数) |
| 12.17 | 中北HC | 9 | | | 9 | - | |
| 12.24 | 峡南HC | 4 | 2 | 6 | 12 | - | - |
| 12.25 | 中北HC峡北支所 | 5 | | | 5 | - | |
| 12.25 | 中北HC | 5 | | | 5 | - | |
| 12.25 | 富士・東部HC | 2 | | | 2 | - | |
| 1. 7 | 峡東HC | 19 | | 11 | 30 | - | - |
| 1.14 | 富士・東部HC | 6 | | 5 | 11 | - | - |
| 1.16 | 中北HC峡北支所 | 4 | | | 4 | - | |
| 1.16 | 峡東HC | 11 | | 15 | 26 | - | - |
| 1.16 | 中北HC | 1 | | | 1 | - | |
| 1.19 | 中北HC峡北支所 | 5 | | 5 | 10 | - | - |
| 1.21 | 中北HC | 1 | | | 1 | - | |
| 2.14 | 中北HC | 1 | | | 1 | - | |
| 3. 2 | 峡東HC | 8 | | 13 | 21 | - | - |
| 3. 3 | 富士・東部HC | 1 | | | 1 | - | |
| 3. 6 | 中北HC | 1 | | | 1 | - | |
| 3. 6 | 中北HC峡北支所 | 4 | | | 4 | - | |
| 3.12 | 中北HC | 5 | | | 5 | - | |
| 3.12 | 中北HC | 3 | | | 3 | - | |
| 3.16 | 峡東HC | 8 | | | 8 | - | |
| 3.19 | 富士・東部HC | 8 | | 6 | 14 | - | - |
| 3.23 | 中北HC峡北支所 | 19 | | 6 | 25 | - | - |
| 合計 | | 317 | 16 | 148 | 481 | | |

HC: 保健所, P: 患者, E: 従業員

表8 平成21年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果

| 月.日 | 依頼機関 | 検査項目 | 検体名 | 検体数 | 結果 |
|------|----------|-------|-----------|-----|-----------------------|
| 8. 5 | 富士・東部HC | 一般生菌 | ミネラルウォーター | 1 | 陰性 |
| | | 大腸菌群 | | | 陰性 |
| | | 真菌 | | | 陰性 |
| 9. 9 | 中北HC | 一般生菌数 | 菓子 | 1 | 300 CFU/ml 以下 |
| | | 大腸菌群 | | | 陰性 |
| 9.24 | 富士・東部HC | 真菌 | 菓子 | 1 | 同定不可 |
| 1. 5 | 衛生薬務課 | 無菌試験 | 採血管 | 1 | 陰性 |
| 1.19 | 中北HC峡北支所 | 真菌 | 清涼飲料水 | 1 | <i>Cladosporium</i> 属 |
| 1.19 | 富士・東部HC | 一般生菌 | ミネラルウォーター | 1 | 陰性 |
| | | 大腸菌群 | | | 陰性 |
| 合計 | | | | 6 | |

表9 平成21年度 腸管出血性大腸菌感染症志賀毒

| No. | 分離月日 | 血清型 | 年齢・性 | 患者・保菌者別 | 志賀毒素型 | | 備考 |
|-----|-------|----------|------|---------|-------|------|----------|
| 1 | 7. 1 | O157:H7 | 85・F | 患者 | Stx1 | Stx2 | |
| 2 | 8.13 | O157:H7 | 28・F | 患者 | Stx1 | Stx2 | |
| 3 | 8.13 | O157:H7 | 33・M | 保菌者 | Stx1 | Stx2 | |
| 4 | 8.28 | O157:H7 | 50・F | 患者 | Stx1 | Stx2 | |
| 5 | 12.18 | O157:HNM | 26・F | 患者 | Stx1 | Stx2 | |
| 6 | 12.31 | O157:HNM | 26・M | 保菌者 | Stx1 | Stx2 | No.5の接触者 |

表10 平成21年度 日本脳炎流行予測調査

| 回数 | 採血月日 | 調査頭数 | HI抗体価 ^{*1} | | | | | | | HI抗体陽性 数 ^{*2} (%) | 2ME感受性抗体 陽性数(%) |
|----|------|------|---------------------|----|----|----|----|-----|-----|-------------------------------|--------------------|
| | | | <10 | 10 | 20 | 40 | 80 | 160 | 320 | | |
| 1 | 7.31 | 10 | 10 | | | | | | | 0 (0) | 0 (0) |
| 2 | 8.11 | 10 | 10 | | | | | | | 0 (0) | 0 (0) |
| 3 | 8.19 | 10 | 10 | | | | | | | 0 (0) | 0 (0) |
| 4 | 8.25 | 10 | 10 | | | | | | | 0 (0) | 0 (0) |
| 5 | 9. 1 | 10 | 10 | | | | | | | 0 (0) | 0 (0) |
| 6 | 9.10 | 10 | 10 | | | | | | | 0 (0) | 0 (0) |
| 7 | 9.29 | 10 | 5 | | | | | 1 | 4 | 5 (50) | 4 (80) |

*1:抗原 JaGAR#01 *2:赤血球凝集抑制(HI)抗体価 10

():2ME感受性抗体陰性、疑陽性数

表11 平成21年度 インフルエンザ流行予測調査結果

1) A/ブリスベン/59/2007(H1N1)株に対するHI抗体価

| 年齢層 (歳) | 例数 | H I 抗体 価 | | | | | | | | 10抗体保有者数 (%) | 40抗体保有者数 (%) |
|------------|-----|----------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----------------|-----------------|
| | | <10 | 10 | 20 | 40 | 80 | 160 | 320 | 640 | | |
| 5~9 | 8 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 1 | 1 | 8 (100.0) | 7 (87.5) |
| 10~14 | 10 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 3 | 4 | 0 | 10 (100.0) | 9 (90.0) |
| 15~19 | 18 | 3 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 2 | 4 | 15 (83.3) | 12 (66.7) |
| 20~29 | 25 | 6 | 0 | 6 | 4 | 4 | 3 | 2 | 0 | 19 (76.0) | 13 (52.0) |
| 30~39 | 25 | 8 | 2 | 7 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 17 (68.0) | 8 (32.0) |
| 40~49 | 25 | 5 | 0 | 7 | 7 | 1 | 2 | 1 | 2 | 20 (80.0) | 13 (52.0) |
| 50~59 | 25 | 13 | 4 | 2 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 12 (48.0) | 6 (24.0) |
| 60~ | 25 | 5 | 2 | 7 | 5 | 2 | 2 | 2 | 0 | 20 (80.0) | 11 (44.0) |
| 全年齢層 | 161 | 40 | 10 | 32 | 26 | 18 | 15 | 12 | 8 | 121 (75.2) | 79 (49.1) |

2) A/カリフォルニア/7/2009(H1N1)株に対するHI抗体価

| 年齢層 (歳) | 例数 | H I 抗体 価 | | | | | | | | 10抗体保有者数 (%) | 40抗体保有者数 (%) |
|------------|-----|----------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----------------|-----------------|
| | | <10 | 10 | 20 | 40 | 80 | 160 | 320 | 640 | | |
| 5~9 | 8 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 (12.5) | 1 (12.5) |
| 10~14 | 10 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 (10.0) | 1 (10.0) |
| 15~19 | 18 | 11 | 1 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 7 (38.9) | 2 (11.1) |
| 20~29 | 25 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 (0.0) | 0 (0.0) |
| 30~39 | 25 | 20 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 (20.0) | 1 (4.0) |
| 40~49 | 25 | 23 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 (8.0) | 2 (8.0) |
| 50~59 | 25 | 21 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 4 (16.0) | 3 (12.0) |
| 60~ | 25 | 21 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 (16.0) | 3 (12.0) |
| 全年齢層 | 161 | 137 | 4 | 7 | 5 | 4 | 1 | 2 | 1 | 24 (14.9) | 13 (8.1) |

3) A/ウルグアイ/716/2007(H3N2)株に対するHI抗体価

| 年齢層 (歳) | 例数 | H I 抗体 価 | | | | | | | | 10抗体保有者数 (%) | 40抗体保有者数 (%) |
|------------|-----|----------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----------------|-----------------|
| | | <10 | 10 | 20 | 40 | 80 | 160 | 320 | 640 | | |
| 5~9 | 8 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 | 3 | 0 | 0 | 7 (87.5) | 7 (87.5) |
| 10~14 | 10 | 1 | 0 | 1 | 2 | 4 | 0 | 0 | 2 | 9 (90.0) | 8 (80.0) |
| 15~19 | 18 | 5 | 2 | 2 | 5 | 3 | 0 | 0 | 1 | 13 (72.2) | 9 (50.0) |
| 20~29 | 25 | 11 | 5 | 4 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 14 (56.0) | 5 (20.0) |
| 30~39 | 25 | 14 | 1 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | 0 | 11 (44.0) | 7 (28.0) |
| 40~49 | 25 | 8 | 2 | 5 | 5 | 4 | 1 | 0 | 0 | 17 (68.0) | 10 (40.0) |
| 50~59 | 25 | 17 | 3 | 0 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 8 (32.0) | 5 (20.0) |
| 60~ | 25 | 15 | 2 | 4 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 10 (40.0) | 4 (16.0) |
| 全年齢層 | 161 | 72 | 15 | 19 | 20 | 23 | 6 | 2 | 4 | 89 (55.3) | 55 (34.2) |

4) B/ブリスベン/60/2008株に対するHI抗体価

| 年齢層 (歳) | 例数 | H I 抗体 価 | | | | | | | | 10抗体保有者数 (%) | 40抗体保有者数 (%) |
|------------|-----|----------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----------------|-----------------|
| | | <10 | 10 | 20 | 40 | 80 | 160 | 320 | 640 | | |
| 5~9 | 8 | 0 | 2 | 1 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 8 (100.0) | 5 (62.5) |
| 10~14 | 10 | 1 | 3 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 9 (90.0) | 4 (40.0) |
| 15~19 | 18 | 7 | 5 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 (61.1) | 2 (11.1) |
| 20~29 | 25 | 12 | 1 | 4 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 | 13 (52.0) | 8 (32.0) |
| 30~39 | 25 | 5 | 0 | 5 | 8 | 6 | 1 | 0 | 0 | 20 (80.0) | 15 (60.0) |
| 40~49 | 25 | 3 | 2 | 9 | 4 | 6 | 0 | 1 | 0 | 22 (88.0) | 11 (44.0) |
| 50~59 | 25 | 10 | 2 | 11 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 (60.0) | 2 (8.0) |
| 60~ | 25 | 8 | 3 | 8 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 17 (68.0) | 6 (24.0) |
| 全年齢層 | 161 | 46 | 18 | 44 | 28 | 23 | 1 | 1 | 0 | 115 (71.4) | 53 (32.9) |

5) B/フロリダ/4/2006株に対するHI抗体価

| 年齢層 (歳) | 例数 | H I 抗体 価 | | | | | | | | 10抗体保有者数 (%) | 40抗体保有者数 (%) |
|------------|-----|----------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----------------|-----------------|
| | | <10 | 10 | 20 | 40 | 80 | 160 | 320 | 640 | | |
| 5~9 | 8 | 0 | 0 | 1 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 8 (100.0) | 7 (87.5) |
| 10~14 | 10 | 1 | 0 | 0 | 4 | 4 | 1 | 0 | 0 | 9 (90.0) | 9 (90.0) |
| 15~19 | 18 | 1 | 0 | 4 | 3 | 4 | 3 | 2 | 1 | 17 (94.4) | 13 (72.2) |
| 20~29 | 25 | 3 | 0 | 4 | 4 | 7 | 5 | 1 | 1 | 22 (88.0) | 18 (72.0) |
| 30~39 | 25 | 5 | 0 | 7 | 5 | 5 | 3 | 0 | 0 | 20 (80.0) | 13 (52.0) |
| 40~49 | 25 | 5 | 0 | 2 | 8 | 5 | 4 | 1 | 0 | 20 (80.0) | 18 (72.0) |
| 50~59 | 25 | 8 | 2 | 10 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 17 (68.0) | 5 (20.0) |
| 60~ | 25 | 5 | 2 | 8 | 6 | 2 | 1 | 1 | 0 | 20 (80.0) | 10 (40.0) |
| 全年齢層 | 161 | 28 | 4 | 36 | 37 | 31 | 18 | 5 | 2 | 133 (82.6) | 93 (57.8) |

表12 平成21年度 月別ウイルス検出状況と臨床像

| 検体採取年月 | 2009年 | | | | | | | | | | | | 2010年 | | | 臨床像 (検出数) | | | |
|--------|-----------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-------|----|-----|--------------|----|-------------|------------------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 4月 | 5月 | | 6月 | | |
| 検体数 | 11 | 22 | 47 | 32 | 99 | 32 | 136 | 223 | 134 | 83 | 22 | 7 | 848 | | | | | | |
| 検出ウイルス | パラインフルエ | 3 | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | インフルエンザ様(1) |
| | ヒトメタニューモ | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | インフルエンザ様(1) |
| | アデノ | | | | | | 2 | | | | | | 1 | | | | | | インフルエンザ様(3) |
| | コクサッキー | | | | | | 3 | | | | | | | 3 | | | | | インフルエンザ様(3) |
| | 単純ヘルペス | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | インフルエンザ様(1) |
| | サイトメガロ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 先天性メガロウイルス感染症(1) |
| | インフルエンザ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 新型インフルエンザ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | A(H1)pdm | | | 1 | 4 | 20 | 83 | 25 | 129 | 196 | 106 | 69 | 20 | 3 | 656 | | | | インフルエンザ様(656) |
| | A(H1) | 4 | 3 | | 1 | | | | | | | | | | 8 | | | | インフルエンザ様(8) |
| A(H3) | | 2 | 1 | 2 | | | | | | | | | | 5 | | | | インフルエンザ様(5) | |
| B | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | 5 | | | | インフルエンザ様(4) | |
| 合計 | 8 | 8 | 7 | 23 | 85 | 28 | 129 | 197 | 106 | 69 | 21 | 3 | 684 | | | | | | |

表13 平成21年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査

| 月.日 | 保健所 | 検体数 | 検体 | | | | 検出ウイルス* | 検出数 |
|----------|-------------------------|-----|----|----|----|------|----------------------|-----|
| | | | 糞便 | 吐物 | 食品 | ふきとり | | |
| 4.4-5 | 中北(峡北支所) | 16 | 16 | | | | サポウイルスGI | 6 |
| 4.10 | 中北 | 35 | 35 | | | | ノロウイルスG | 6 |
| 4.18 | 中北 | 15 | 15 | | | | サポウイルスGI ノロウイルスGI | 9 |
| 4.30 | 中北 | 1 | 1 | | | | - | 0 |
| 5.4 | 中北(峡北支所) | 1 | 1 | | | | - | 0 |
| 5.26-27 | 中北、中北(峡北支所) 峡東 | 62 | 41 | | 21 | | ノロウイルスG | 23 |
| 6.20 | 峡東 | 1 | 1 | | | | - | 0 |
| 7.15-16 | 中北、峡東、富士・東部 | 4 | 4 | | | | ノロウイルスG | 4 |
| 7.29-8.7 | 富士・東部 | 12 | 12 | | | | - | 0 |
| 8.5 | 中北 | 7 | 7 | | | | - | 0 |
| 8.5-7 | 富士・東部 | 15 | 15 | | | | - | 0 |
| 8.5-6 | 峡東 | 9 | 9 | | | | - | 0 |
| 8.6 | 富士・東部 | 14 | 14 | | | | - | 0 |
| 8.7-8 | 富士・東部 | 20 | 20 | | | | - | 0 |
| 8.10-11 | 富士・東部 | 3 | 3 | | | | - | 0 |
| 8.13-17 | 富士・東部 | 10 | 10 | | | | ノロウイルスG | 3 |
| 8-14 | 富士・東部 | 6 | 6 | | | | - | 0 |
| 12.3 | 富士・東部 | 1 | 1 | | | | - | 0 |
| 12.16-17 | 中北、中北(峡北支所) | 16 | 10 | | 6 | | ノロウイルスG | 7 |
| 12.17 | 中北 | 9 | 9 | | | | ノロウイルスGI | 3 |
| 12.24-26 | 中北、中北(峡北支所) 峡南、富士・東部 | 16 | 16 | | | | ノロウイルスGI | 11 |
| 1.6 | 中北 | 2 | 2 | | | | ノロウイルスGII | 2 |
| 1.7 | 峡東 | 19 | 19 | | | | ノロウイルスGII | 9 |
| 1.8 | 中北 | 6 | 6 | | | | ノロウイルスGII | 4 |
| 1.8 | 中北 | 3 | 3 | | | | ノロウイルスGII | 2 |
| 1.14-16 | 富士・東部 | 8 | 8 | | | | ノロウイルスGII | 7 |
| 1.16 | 中北(峡北支所) | 4 | 4 | | | | ノロウイルスGII | 4 |
| 1.16 | 中北 | 14 | 14 | | | | ノロウイルスGII | 9 |
| 1.16-17 | 中北、峡東 | 27 | 12 | | 15 | | ノロウイルスGI・GII | 9 |
| 1.19-20 | 中北(峡北支所) | 5 | 5 | | | | ノロウイルスGI・GII | 3 |
| 1.21 | 中北 | 1 | 1 | | | | ノロウイルスGII | 1 |
| 1.21 | 中北 | 24 | 22 | | 2 | | ノロウイルスGI・GII | 8 |
| 1.22 | 中北 | 7 | 7 | | | | ノロウイルスGII | 4 |
| 1.27 | 峡東 | 3 | 3 | | | | ノロウイルスGII | 3 |
| 1.27 | 中北(峡北支所) | 2 | 2 | | | | ノロウイルスGII | 2 |
| 1.28-29 | 中北(峡北支所) | 10 | 10 | | | | ノロウイルスGII | 5 |
| 1.29 | 中北 | 18 | 4 | 10 | 4 | | ノロウイルスGII | 2 |
| 1.29 | 富士・東部 | 11 | 11 | | | | ノロウイルスGII | 3 |
| 1.29-2.1 | 富士・東部 | 13 | 13 | | | | ノロウイルスGII | 9 |

表13 平成21年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査 (続き)

| 月. 日 | 保健所 | 検体数 | 検 体 | | | | 検出ウイルス* | 検出数 |
|---------|-------------|-----|-----|----|----|------|--------------|-----|
| | | | 糞便 | 吐物 | 食品 | ふきとり | | |
| 2. 2 | 峡東 | 2 | 2 | | | | ノロウイルスGII | 1 |
| 2. 4 | 富士・東部 | 4 | 4 | | | | ノロウイルスGII | 4 |
| 2. 6 | 中北(峡北支所) | 3 | 3 | | | | ノロウイルスGII | 2 |
| 2.11-12 | 中北(峡北支所) | 20 | 20 | | | | ノロウイルスGII | 6 |
| 2.11 | 中北 | 15 | 15 | | | | ノロウイルスGII | 6 |
| 2.13 | 中北(峡北支所) | 15 | 15 | | | | ノロウイルスGII | 6 |
| 2.13-15 | 中北 | 47 | 34 | 8 | 5 | | ノロウイルスGII | 11 |
| 2.14 | 中北 | 1 | 1 | | | | ノロウイルスGII | 1 |
| 2.16 | 中北 | 15 | 15 | | | | ノロウイルスGII | 6 |
| 2.17 | 中北(峡北支所) | 13 | 13 | | | | ノロウイルスGII | 1 |
| 2.18 | 中北 | 9 | 9 | | | | ノロウイルスGII | 7 |
| 2.19-20 | 峡東 | 4 | 4 | | | | - | 0 |
| 3. 2- 4 | 峡東、富士・東部 | 22 | 9 | | 13 | | ノロウイルスGII | 8 |
| 3. 6 | 中北、中北(峡北支所) | 5 | 5 | | | | ノロウイルスGII | 5 |
| 3.11 | 中北 | 6 | 6 | | | | ノロウイルスGII | 6 |
| 3.12 | 中北 | 4 | 4 | | | | ノロウイルスGII | 4 |
| 3.12 | 中北 | 4 | 4 | | | | ノロウイルスGII | 2 |
| 3.12 | 中北 | 5 | 5 | | | | - | 0 |
| 3.12 | 中北 | 3 | 3 | | | | ノロウイルスGII | 2 |
| 3.16-17 | 富士・東部 | 3 | 3 | | | | A群ロタウイルス | 3 |
| 3.16 | 峡東 | 8 | 8 | | | | ノロウイルスGII | 4 |
| 3.19-20 | 富士・東部 | 8 | 8 | | | | ノロウイルスGI・GII | 5 |
| 3.23 | 中北(峡北支所) | 19 | 19 | | | | - | 0 |
| 3.24 | 中北(峡北支所) | 15 | 15 | | | | A群ロタウイルス | 4 |
| 3.25 | 中北、峡東、富士・東部 | 9 | 9 | | | | ノロウイルスGII | 9 |
| 3.29 | 峡南 | 9 | 9 | | | | ノロウイルスGII | 7 |
| 合 計 | | 718 | 634 | 0 | 18 | 66 | | 268 |
| | | | | | | | ノロウイルスGI** | 31 |
| | | | | | | | ノロウイルスGII** | 226 |
| | | | | | | | サポウイルスG1 | 14 |
| | | | | | | | A群ロタウイルス | 7 |

* ノロウイルス:リアルタイムRT-PCR法, サポウイルス,A群ロタウイルス:PCR法・シーケンス

** 重複感染を含む

表14 平成21年度 環境汚染に係る苦情、事故に伴う行政検査 (17件)

| 月.日 | 搬入者 | 種別 | 摘要 | 検体 | 項目 |
|-------|--------------|------|----------|----|----|
| 4.6 | 峡南林務環境事務所 | 水質汚濁 | 油類の流出 | 2 | 2 |
| 4.30 | 峡南林務環境事務所 | 水質汚濁 | 事業場排水 | 1 | 3 |
| 5.7 | 峡東林務環境事務所 | 水質汚濁 | 油類の流出 | 2 | 2 |
| 5.21 | 環境整備課 | 水質汚濁 | 焼却残渣の流出 | 2 | 22 |
| 6.18 | 大気水質保全課 | 水質汚濁 | 油の浸透 | 2 | 6 |
| 6.24 | 中北林務環境事務所 | 水質汚濁 | ザリガニのへい死 | 3 | 23 |
| 7.15 | 峡東林務環境事務所 | 水質汚濁 | 藻の発生 | 4 | 17 |
| 7.24 | 中北林務環境事務所 | 水質汚濁 | 油類の流出 | 2 | 5 |
| 8.20 | 富士・東部林務環境事務所 | 水質汚濁 | 油類の流出 | 6 | 15 |
| 10.19 | 中北林務環境事務所 | 水質汚濁 | 排出水の汚濁 | 6 | 18 |
| 10.21 | 峡東林務環境事務所 | 水質汚濁 | 用水路の汚濁 | 1 | 4 |
| 2.25 | 峡東林務環境事務所 | 水質汚濁 | 排出水の汚濁 | 1 | 4 |
| 3.11 | 富士・東部林務環境事務所 | 水質汚濁 | 排出水の汚濁 | 1 | 10 |
| 3.17 | 中北林務環境事務所 | 水質汚濁 | 油類の流出 | 7 | 35 |
| 7.8 | 中北林務環境事務所 | 騒音 | 低周波音 | 2 | 2 |
| 5.7 | 富士・東部林務環境事務所 | 悪臭 | 発生源不明 | 1 | 1 |
| 6.9 | 富士・東部林務環境事務所 | 土壌汚染 | 不法投棄 | 3 | 93 |

論文抄録および学会発表等

論 文 抄 録

吉澤 一家

付着珪藻群集から見た甲府市内河川の有機汚濁
状況

Diatom, 25, 148-152(2009)

付着珪藻組成から甲府市内を流れる荒川の水質
を判定した。その結果、

上流部：DAI_{po}=98 極貧腐水性

中流部：DAI_{po}=45 中腐水性

下流部：DAI_{po}=45 "

となり、毎月実施されている公共用水域水質調査のデータと一致した。中流部でのDAI_{po}値の低下は、貢川や相川から流入する負荷量と、測定地点に設置されている堰による流速の低下が原因と考えられた。また上流部の主な珪藻組成は30年前に報告された珪藻組成と類似していた。

吉澤 一家、高橋 一孝、池口 仁、芹澤 和世、
御園生 拓、平田 徹、森 一博、宮崎 淳一、芹
澤如比古、永坂 正夫

自然公園における湖の水質管理に関する総合研究

山梨県総合理工学研究機構研究報告書, 4, 41-
49(2009)

特に生態系や景観の保全に配慮が必要な区域内にある、自然湖沼での水質管理に適した浄化システムを構築するために、富士五湖の1つである山中湖を対象水域として、水生植物及び貝類

を用いた手法の検討を試みた。平成20年度は1年目にあたり、浄化システムを構成するために必要な、浄化能及び対照水域の生態系に関する基礎データの収集を行なった。

清水 源治

環境騒音モニタリングにおける除外音の処理

騒音制御, 34(1), 61-62(2010)

環境騒音のモニタリングでは、「緊急車両のサイレンや鳥の鳴き声、虫の音など測定に影響を及ぼす音は除外する」ことになっている。またその評価は「1日24時間の測定結果から昼と夜の時間帯ごとに基準値と比較する」としている。

そのため環境騒音の把握は24時間にわたり音源を識別することが必要となり、各地方自治体は人が付いて音源を判断したり(有人測定)、統計処理により音源を識別して無人化を図る(無人測定)ことで対応することになった。

ここで本県は1分ごとに騒音レベルを算出できる騒音計を用いて無人測定の方法をとった。この方法は1時間分60個の値についてGrubbsの検定を行い、測定に影響を及ぼす異常に大きな音を除外する方法で、残った値から1時間値を求めて昼夜の騒音レベルを求めた。

ここでは、その方法と測定結果を紹介した。

学 会 発 表

- 1) 尾形 正岐, 小林 浩, 輿水 達司
甲府盆地周辺河川水の水溫経年变化(第15回地下水・土壤汚染とその防止対策に関する研究集会, 名古屋, 2009. 6.18)
- 2) 吉澤 一家, 高橋 一孝, 池口 仁, 芹澤 和世, 御園生 拓, 平田 徹, 森 一博, 宮崎 淳一, 芹澤 如比古, 永坂 正夫
自然公園における湖の水質の向上に関する研究(やまなし産学官連携研究交流事業, 甲府, 2009, 9. 4)
- 3) 辻 敬太郎
発生源周辺を含めた甲府盆地のVOCの汚染実態調査
(平成21年度全国環境研協議会関東甲信静支部大気専門部会, 甲府, 2009, 9. 8)
- 4) 武藤 洋介, 清水 源治, 石井康一郎
光化学オキシダントと粒子状物質等の汚染特性解明に関する研究(2) 関東甲信静地域におけるOx高濃度事例解析について(1) (第50回大気環境学会年会, 横浜, 2009, 9.16)
- 5) 清水 源治
山梨県東部におけるオキシダントと上層風との関係 (第50回大気環境学会年会, 横浜, 2009, 9.17)
- 6) 飯島 明宏, 清水 源治, 小澤 邦壽
関東における大気エアロゾルのキャラクターゼーション(第30報) PMF法による総合解析 (第50回大気環境学会年会, 横浜, 2009, 9.18)
- 7) 小林 浩, 輿水 達司, 尾形 正岐
甲府盆地飲用井戸水中のMg・Ca濃度と起源(日本地下水学会秋季講演会, 札幌, 2009.10.15-16)
- 8) 吉澤 一家
富士五湖の溶存態CODの経年变化
(平成21年度全環関東甲信静支部水質専門部会, 宇都宮, 2009, 10.23)
- 9) 小林 浩, 堀内 雅人
山梨県内地下水の農薬濃度
- 全国衛生化学技術協議会年会(盛岡, 2009.11.12-13)
- 10) 渡辺 和子, 小泉 美樹, 小林 浩
山梨県産農産物の残留農薬とそのリスクについて(全国衛生化学技術協議会年会(盛岡, 2009.11.12-13)
- 11) 吉澤 一家, 小田切幸次
山中湖流入河川の負荷量について(日本陸水学会甲信越支部会第35回研究発表会, 富士河口湖, 2009, 11.28-29)
- 12) 輿水 達司, 戸村 健児, 小林 浩, 尾形正岐, 内山 高, 石原 諭
富士北麓の地下水循環と富士五湖の水の起源(第19回環境地質学シンポジウム, 2009.12. 4-5)
- 13) 渡辺 和子, 小泉 美樹, 小林 浩
健康食品中の生薬成分(ヘスペリジン)の検出事例(地方衛生研究所全国協議会関東甲信静ブロック専門家会議, 理化学部門, 宇都宮, 2010. 1.15)
- 14) 小泉 美樹, 渡辺 和子, 小林 浩, 渡辺由香里
食品苦情処理事例について(山梨県公衆衛生研究発表会, 山梨, 2010. 2.4)
- 15) 渡辺 和子, 小泉 美樹, 小林 浩
健康食品中の局方外医薬品成分の検出事例について(平成21年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学部会, 千葉, 2010. 2.19)
- 16) 小泉 美樹, 渡辺 和子, 小林 浩, 渡辺由香里
山梨県における食品苦情事例(平成21年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学部会, 千葉, 2010 .2.19)
- 17) 吉澤 一家, 大石 衛
焼成湖泥を用いた水草植栽実験～山中湖での栽培事例～
(第44回日本水環境学会年会, 福岡市, 2010.3.15-17)

研究報告

別のファイルになります。

